

令和〇年度
学士論文

卒業論文執筆ガイド

2026 年 1 月 16 日版

Undergraduate Thesis Writing Guide

神奈川大学 工学部電気電子情報工学科
中沢研究室

学籍番号 学籍番号
氏名 氏名
指導教員 ○○ ○○ 助教授

目次

第 1 章	\LaTeX での具体的な書き方	1
1.1	図の挿入方法	1
1.2	表の挿入方法	2
1.3	数式の書き方	4
1.3.1	インライン数式（文中の数式）	4
1.3.2	別行立て数式（番号付き）	4
1.3.3	複数行の数式	4
参考文献		5

第 1 章 L^AT_EX での具体的な書き方

このテンプレートを使用する際の、具体的な記述方法を説明する。これはあくまで一部の例であり、詳細は L^AT_EX の参考書やオンラインドキュメントを参照されたい。

1.1 図の挿入方法

図を挿入する際は、`figure` 環境を使用する。

図のコード例を示す。

```
\begin{figure}[htbp]
  \centering
  \includegraphics[keepaspectratio, width=0.8 \linewidth]{figures}
  \caption{caption}
  \label{fig:label}
\end{figure}
```

一行ずつ解説する。

```
\begin{figure}[htbp]
\end{figure}
```

L^AT_EX は、何かの構文を始めるときに `\begin {...}` を使い、終わるときに `\end {...}` を使う。この場合、`figure` 環境を開始および終了している。`[htbp]` は、図の配置に関するオプションである。`here` (ここ)、`top` (ページの上部)、`bottom` (ページの下部)、`page` (専用のページ) を意味し、左から順に優先される。

```
\centering
```

このコマンドは、図を中央に配置するためのものである。

```
\includegraphics[keepaspectratio, width=0.8 \linewidth]{figures/example.pdf}
```

このコマンドは、実際に図を挿入するためのコマンドであり、`figures/example.pdf` というファイルを挿入している。`width=0.8 \linewidth` は、図の幅を本文の幅の 80% に設定する

ことを意味している。keepaspectratio は、図の縦横比を維持するためのオプションである。

```
\caption{caption}
```

このコマンドは、図のキャプション（説明文）を設定するためのものである。キャプションは図の下に表示される。

```
\label{fig:label}
```

このコマンドは、図にラベルを付けるためのものである。ラベルを付けることで、本文中で図を参照することができる。

図のファイルは figures/ フォルダに配置すること。

本文中での図の参照は以下のように行う。

```
\Fig{fig:label}に示すように、...
```

\Fig{...}は「Fig. 1」のように表示される

1.2 表の挿入方法

表を挿入する際は、table 環境を使用する。

```
\begin{table}[htbp]
\centering
\caption{実験条件}
\label{tab:conditions}
\begin{tabular}{lcc}
\hline
項目 & 値 & 単位 \\
\hline
温度 & 25 & \si{\celsius} \\
圧力 & 101.3 & \si{\kilo \pascal} \\
\hline
\end{tabular}
```

```
\end{table}
```

一行ずつ解説する.

```
\begin{table}[htbp]
\end{table}
```

`table` 環境を開始および終了している. `[htbp]` は, 図と同様に表の配置に関するオプションである.

```
\centering
```

このコマンドは, 表を中央に配置するためのものである.

```
\caption{実験条件}
```

このコマンドは, 表のキャプション (説明文) を設定するためのものである. キャプションは表の上に表示される.

```
\label{tab:conditions}
```

このコマンドは, 表にラベルを付けるためのものである. ラベルを付けることで, 本文中で表を参照することができる.

```
\begin{tabular}{lcc}
... \end{tabular}
```

この部分が実際に表を作成する部分である. `tabular` 環境を使用して表を作成する. `{lcc}` は, 表の列の配置を指定している. ここでは, 1 列目が左寄せ (l), 2 列目と 3 列目が中央寄せ (c) であることを示している. 表の内容は, 行ごとに記述し, 各セルは `&` で区切る. 行の終わりは

```
\\
```

で示す.

実際に表を作成するときは、すべて中央揃えで作成すること. また、web 上で表を作成するツールがあるため、そちらを利用することも推奨する.

1.3 数式の書き方

1.3.1 インライン数式 (文中の数式)

本文中に $E = mc^2$ のように記述する.

1.3.2 別行立て数式 (番号付き)

別行立て数式では `equation` 環境を使用する.

$$E = mc^2 \tag{1.1}$$

本文中での式の参照:

```
\Eq{eq:einstein}より, ...
```

`\Eq{...}` は「Eq. 1.1」のように表示される.

1.3.3 複数行の数式

複数行の数式は `align` 環境を使用する.

$$a = b + c \tag{1.2}$$

$$d = e + f \tag{1.3}$$

```
\begin{align}
  a &= b + c \label{eq:first} \\
  d &= e + f \label{eq:second}
\end{align}
```

複数行の数式でも、本文中での式の参照は、Eq. 1.2 や Eq. 1.3 のように行うことができる.

参考文献